

[クワガタムシの飼いかた]

クワガタムシの一生

種類	1年目				2年目				3年目				4年目			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
(1年で成虫になる) コクワガタ	卵				幼虫				サナギ				成虫			
(2年で成虫になる) ノコギリクワガタ ヒラタクワガタ ミヤマクワガタ	卵				幼虫				サナギ				成虫			

※上の種類のうち、ノコギリクワガタとミヤマクワガタの成虫は野外で冬は越せません。

成虫を飼う

マットと止まり木

マットの水分はマットをにぎってダンゴになる程度。
広葉樹の硬い材をカットし、材の上部にエサ台用のくぼみを作る。
ミヤマクワガタやノコギリクワガタには立てた材を置くと良い。

入れる数

幅35cmのプラスチック水槽で3～4頭。オスは2頭以上入れない。
むやみにさわると、ストレスで死にやすくなる。

水分調整

フタの大部分をビニール等で裏うちすると容器内の水分が安定する。

エサ

エサは材のくぼみに入れ、3～4日に1回（バナナは毎日）交換する。
●リンゴ・バナナ・昆虫ゼリー
●人工の糖蜜（黒砂糖を少量の水で煮つめ、酒などを加える）
分量：黒砂糖 500g・酒または焼酎 100cc・酢 50cc

ダニ等の発生

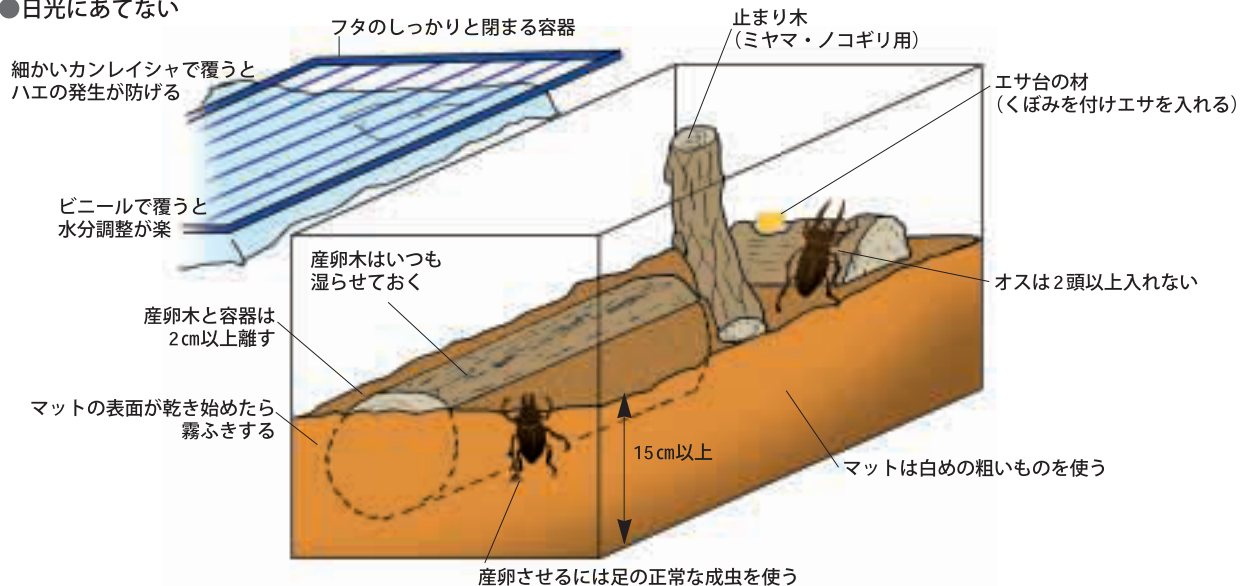
ダニ、ショウジョウバエ等が発生したらマット、材等を熱湯に浸す。

冬の管理

飼育容器を暖房のかからない所に置き、冬越しさせます。動かないのでエサは必要ないが、マットが乾かないように注意すること。

クワガタムシ成虫の飼育

- 容器はあまり動かさない
- 日光にあてない



タマゴを産ませる

(1)産卵木と親を入れる

- ・市販の産卵木やシイタケの使用済みホダ木を5日程度水に浸け、材の中の虫を殺すとともに産卵しやすくする。
- ・樹皮は半分ぐらい剥ぎ、産卵木の3分の2程度をマットに埋める。
- ・ノコギリクワガタはマットのかわりに園芸用の黒土を入れればうまく産卵する。
- ・親は体、特に足が完全な個体を選ぶ。35cm×22cm程度の容器に1ペア入れる。

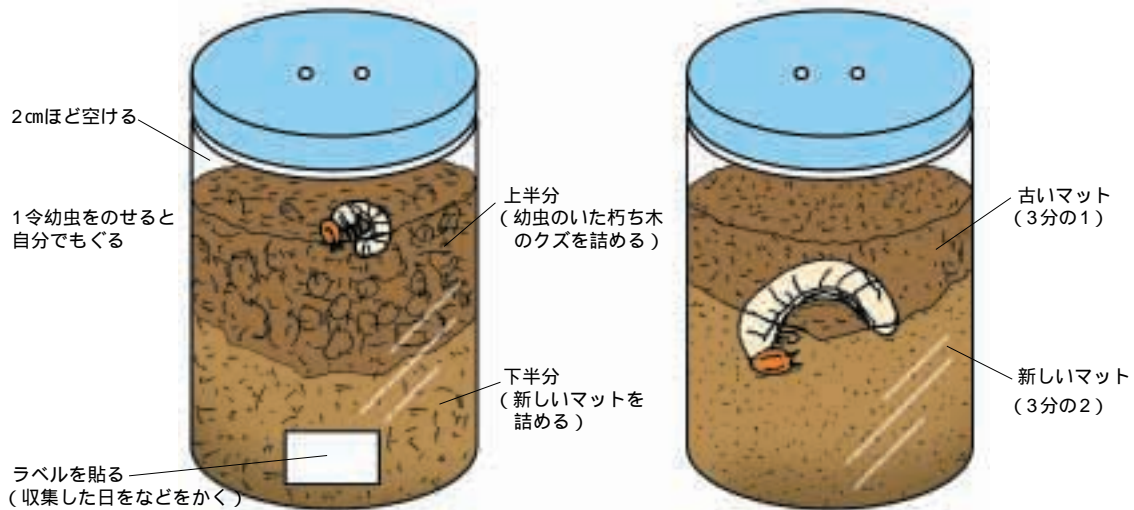
(2)幼虫の掘り出し

- ・産卵木に成虫のかじったあとがあれば、中に幼虫のいることが多い。
- ・産卵木をセットして3ヶ月後に、ナタやナイフで慎重にくずし、幼虫をとり出す。

幼虫のビン飼育

産卵木からとり出した幼虫を入れる

3令幼虫は大食いなのでマットの交換をしよう



マットの水分はダンゴにしても崩れない程度
マットは少しずつ硬く詰める

幼虫を育てるには(ビン飼育の方法)

産卵木の中でもそのまま飼育できますが、産卵木から幼虫を取り出し、ビンを使って飼育できます。ビンは暗い場所に置き、むやみに動かさないことが大切です。

(1)容器の種類

- ・透明なプラスチックやガラスのビンを使い、まわりを黒い紙等でおおうと良い。
- ・幼虫が2cm以下の時は300cc程度、それ以上になったら500～800cc程度のビンを使い、1頭ずつ飼育する。

(2)エサのマット

- ・エサとなるマットは、市販のできるだけ細かいものを使う。マットの水分は成虫飼育と同じ程度。ただし、ノコギリクワガタはにぎったら水がにじむ程度の多めにする。
- ・マットはすりこぎ棒などで硬く詰める。マットが減ってきたり、色が黒くなったら交換すること。交換する時は古いマットを3分の1ぐらい入れること。3令になると大食いになります。

(3)蛹化と羽化

- ・ビンの縁でさなぎになれば、外から見えます。羽化しても、クワガタの体が黒くなるまで、しばらく取り出さないこと。